

「ooimachi plus・・・」

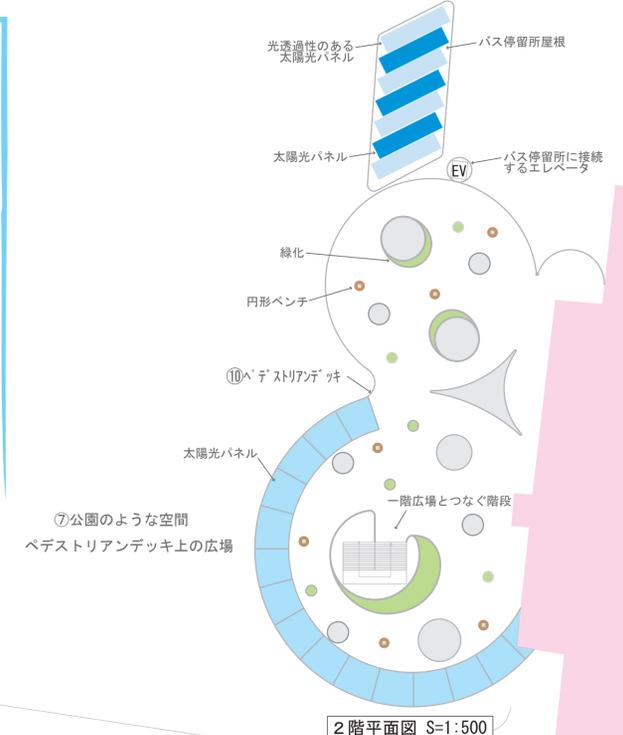
大井町駅は、各鉄道やバス停が接続し、交通の結節点としての役割を担っています。そこに、駅を利用する「多くの人が留まり、まちを楽しむ」人とまちの結節点としての機能をプラスしたいと考え、キーワードを「ooimachi plus・・・」としました。

【plus eco】自然エネルギーによる発電スポット、wi-fiや広告など情報スポット

【plus community】歩道のベンチで集いの空間、公園のような居場所

【plus connect】東西のつながり、協働型まちづくり

既存のバス停や交通網、ハードウェアを生かしつつ、このエコ・コミュニティ・つながりの三つのテーマに沿う、大井町にプラスしたい新たなプログラムを提案します。



2階平面図 S=1:500

1階平面図 S=1:500



南側立面図 S=1:500

<p>①協働型まちづくり 【合意を形成する】</p> <p>市民、専門家、まちづくり大井をはじめとするNPO等が、このエリアの活用方法や運営を決定するために議論する場が必要となります。</p>	<p>②エネルギースポット 【自然エネルギーの有効活用】</p> <p>各所に景観に配慮したモジュールや、効率の良い風車などによる発電スポットをプラスし、発電電力によるwi-fi開放や電子公告、電子掲示板、街灯、災害時の充電・情報発信の場としての機能を付加します。</p>	<p>③歩道のベンチで集いの空間 【ベンチ+交流】</p> <p>まっすぐな歩道にスキマをあけて、集いの場となるベンチを設置します。エネルギースポット利用のwi-fiスポットや地域の電子掲示板を組み合わせ、人がとどまりやすい、居心地の良い交流空間を付加します。</p>	<p>④エコファニチャーの設置 【街灯+エコ】</p> <p>現在は街灯のデザインに統一感がないので、どんたく通りに一体感を持たせるために、街灯の整備をします。停電になっても、風力と太陽光を利用して、あかりが灯るハイブリッド型の街灯の設置を提案します。</p>	<p>⑤仮設のあかり 【防災機能付加】</p> <p>どんたく祭りのときには、ほんほりを利用して、街灯の柱などを利用して、あかりの掛け替えを行います。備蓄するろうそくの点検のため、定期的なキャンドルナイトなどのイベントを企画し、実施することでエリア全体の防災意識を高めます。</p> <p>備蓄品の更新 + イベント → 防災意識の向上</p>	<p>⑥公衆トイレに防災機能付加 【公衆トイレ+備蓄】</p> <p>公衆トイレには、エネルギーと、災害時に必要となる物品を備蓄するための倉庫としての機能を付加します。</p>	<p>⑦公園のような居場所</p> <p>北側の桜並木の道には、デッキやベンチを新たに設けて、気持ちよく散歩できる空間にします。また、駅前広場も2層にして、ペDESTリアンデッキを設け、回遊性の向上だけでなく、車歩を分離した公園のような空間をつくります。</p>	<p>⑧バス停への機能付加 【バス停+エコ+交流】</p> <p>バス停には、ショーケースや電子掲示板を付加します。仮設的な利用として、ブックシェアリングや、地域の小さな展覧会を開催することができます。</p>	<p>⑨バスのルート 【既存をいかした交通網】</p> <p>これまで慣れてきた交通ルートは動かさず、バス停のデザイン、サイン計画、ペDESTリアンデッキによる歩行者の回遊性の向上をプラスして、より安全に利用できるバスターミナルにします。</p> <p>既存の交通ルート + バス停デザイン サイン計画 回遊性の向上 → 安全に利用できるバスターミナル</p>	<p>⑩ペDESTリアンデッキ 【東口と西口をつなぐ】</p> <p>ペDESTリアンデッキによって東口と西口の連続性を確保し、駅を中心とした人の流れを西口の広場まで拡張します。</p>
--	--	--	--	--	--	---	---	--	---

～人があつまる大井町駅前中央通りアイデアコンペ～

提案要旨説明書

■作品タイトル

ooimachi plus . . .

■提案要旨

大井町駅は、各鉄道やバス停が接続し、交通の結節点としての役割を担っています。そこに、駅を利用する「多くの人々が留まり、まちを楽しむ」人とまちの結節点としての機能をプラスしたいと考え、キーワードを「ooimachi plus . . .」としました。

【plus eco】自然エネルギーによる発電スポット、wi-fiや広告など情報スポット

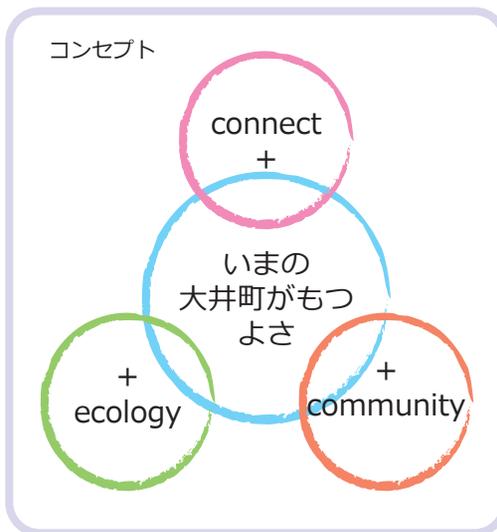
【plus community】歩道のベンチで集いの空間、公園のような居場所

【plus connect】東西のつながり、協働型まちづくり

この、3つが基本コンセプトになります。これまで慣れ親しんだ大井町駅前の良さを生かして、市民、行政、専門家や地元企業が協働で、コンペのアイデアを精査しながら機能付加していくことで、「まちに留まり、まちを楽しめる」これからの大井町をつくっていくことができると考えたためです。

災害や停電に備えたエネルギー備蓄やエコの観点から、エネルギースポットを多く配置しました。ペDESTリアンデッキ、バス停、街灯、ベンチなどに自然エネルギーにより発電する風車や太陽光パネルを付加し、公園のような空間をつくりました。それぞれの空間や、スポットには、ひと休み・ひと仕事ができたり、防災の意識を高めたり、人々の交流を生み出すためのシカケを用意しています。

このようなシカケを、使い慣れた既存のバス停や交通網やハードウェアを生かしながら「エコ・コミュニティ・つながり」の3テーマに沿う大井町にプラスしたい新たなプログラムとして提案しました。



※なぜこのような提案としたのかという理由や、特に工夫した点、アピールしたい点などを自由に記載してください。